



(ヨハネによる福音書、五つのパンと二匹の魚から)

今、持っているもの
から始める。米村 英二 師

CFNJ NEWS

クライスト・フォー・ザ・ネイションズ・ジャパン聖書学院

2023年4月・5月号 NO.189



今、持っているもの から始める。

(ヨハネによる福音書、五つのパンと二匹の魚から)

学院顧問・熊本県大津キリスト教会牧師

米村 英二 師

「ここに少年が大麦のパンを五つと小さい魚を二匹持っています。しかし、こんなに大ぜいの人々では、それが何になりましょう」イエスは言われた。「人々をすわらせなさい」その場所には草が多かった。そこで男たちはすわった。その数はおよそ五千人であった。そこで、イエスはパンを取り、感謝をささげてから、すわっている人々に分けてやられた。また、小さい魚も同じようにして、彼らにほしだけ分けられた。そして、彼らが十分食べたとき、弟子たちに言われた。「余ったパン切れを、一つもむだに捨てないように集めなさい」(ヨハネ6章9節～12節)

人はパンだけで生きるのではなく

この聖書箇所は、イエス様が五千人の人々をパンで養われたという有名な箇所です。この出来事を通してイエス様は私たちに何を教えようとされたのでしょうか？イエス様は公生涯に入る前に、荒野で悪魔の誘惑を受けられました。その最初の誘惑が「石をパンに変えよ」(マタイ4章3節)でした。その誘惑の意図は何でしょうか？それは、もしあなたが群衆の心を捕らえたいなら、先ず、人々の口にパンを与えることが必要で、そうするなら人々は、こぞってあなたのところに来るといふ事だと思います。勿論、この目論見は、あながち間違っていないかもしれません。この世の中でも選挙で当選する為に、人の心を物やお金で動かすという事があります。しかし、イエス様はそれをハッキリと拒絶しました。そしてこう言われました。「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる』と書いてある。」(マタイ4章3節) これは

本来、金銭やパンによらない生き方ができる存在なのだということです。しかしそれにもかかわらず、イエス様は、ここで驚くべき奇跡をもって群衆を養われたのです。その日、多くの人々がイエス様の説教を聞き、夕暮れになってしまい、このまま彼らを空腹の状態で帰したくないと思われました。それは、イエス様の優しさからだろうと思われます。

パンの問題

私はクリスチャンになってまもなく、父にこう言いました。「僕を神学校に行かせてください！」「生きがいのある仕事をしたいのです！」それを聞いて父は烈火のごとく怒りだし、こう言いました。「生意気言うな。好きでもないこの仕事を私がやってきたのは何のためだと思っている。おまえたちを養うためじゃないか！」「みんな苦労して生きているんだ！」当時、家はとても貧しく、父にとっては、家族を食べさせることで精一杯で、生きがいのある仕事を求めることな
(次ページに続く)

ど、自分勝手な贅沢な願いと思ったんだと思います。そこで私は父に従い就職しました。私は電器会社のシャープに勤めましたが、私の心には、金銭を超えた、何かのために生きたいという思いが消えず、むしろ日に日につのって抑えきれないほどになっていきました。そして、とうとう会社をやめ、伝道の道に進む事を決意しました。その決断に対して、当然父は怒りました。そして私を投げ飛ばしました。しかし、私の意志は変わりませんでした。その事が分かった父は私に、こう尋ねました。「これから生活はどうするのか？」私は、「宣教師といっしょに神戸で働くことになる。しかし食べることはできるが、それ以上のものはないだろう。」そう答えると、父は、「ちゃんとした会社に入って、自活できているというのに、何故？わざわざ人様の世話にならなければならないのか。」と悔しそうに言いました。この父の言葉は独身の間の私には何も感じなかったのですが、結婚して家族を持って初めて、その父の言葉が、私の心に沁みて来ました。それは私だけの独り身なら、物など少なくとも構わないけれど、しかし、家庭を持ち子どもがいればそうはいきません。生活の問題、つまりパンの問題がやってくるのです。しかし、振り返って見ると驚くことに、私は21歳で会社を辞め、伝道の道に入って以来、約55年間、神は私の人生に、不足なくパンを与えくださり養ってくださったのです。「**あなたの神、主は、この40年の間あなたとともにおられ、あなたは何一つ欠けたものはなかった**」(申命記2章7節)と、40年の荒野の生活をしたイスラエルの民に神は言われましたが、それは私の人生にも語られた言葉でもありました。神は実に優しい方だったのです。そんな優しいお方だったからこそ、自分の話を聞きに来た人たちを空腹のまま去らせることは、どうしてもできなかったのだと思います。

今あるものから始める

そこで、イエス様は弟子たちに、「**どうしたらいい？**」と声をかけられました。弟子たちをテストする為であったとあります。(ヨハネ6章6節)ここでピリポが言います。「**買ってそれを調達するには、膨大な費用がかかります。だからこれは不可能です。**」ところが弟子のアンデレは、「**ここに一人の少年が5つのパンと2匹の魚をもっています。**」と言って少年を連れて来しました。ここに二つに道が提示されました。第一は、ピリポの提案です。それは、お金を使って外部から調達する道です。そして第2は、アンデレの提案です。それは、例えそれが僅かでも、今、手もとにあるものが役立たないかと考える道です。イエス様はこの

アンデレの案を採用されました。そして、すぐさま、五つのパンと二匹の魚を取り上げ、天を見あげて祈り、それを、弟子たちに配らせました。そうすると、そのパンと魚は、配っても配っても減らず、ついに五千人を養ったというのです！ここに私たちの必要を満たすための道が示されています。イエスは言われました！大勢を養う道は、どこからか買い求めてくることではなく、今、手もとにあるもの、つまり今、自分が持っているもので始めることだという事です！

石橋湛山が訴えたこと

戦前の日本に於いては、増え続ける国民を養うために、狭い国土では困難と思い、その為にアジア諸国を侵略し、植民地化して領土拡大を図りました。それが国民を養う道であると考えたのです。しかし当時、石橋湛山(いしばしたんざん)(1884年～1973年)は、小国主義を唱えてこう言いました。『日本が他国を侵略して領土拡大を図るのは、結局、国を滅ぼすことになるだろう。だから満州はもちろん、朝鮮、台湾、樺太も捨てる覚悟を持つべきだ。それが唯一日本が生きる道であって、国防の上でも、国民を養う上でも、もっとも安全、かつ正しい道だ。』と。しかし大部分の意見は、植民地を失ったら、年々増加する日本の人口を養うことは不可能だと言って、途方もない石橋の考えには、誰も耳を貸しませんでした。ところが結果は、日本は戦争に負け、結局は何もかも失ってしまいました。日本の敗戦が決定的になった時、石橋は歓喜に溢れ、彼の発行する新聞の社説にこう書いたのです。『新しい日本の前途は、実に洋々たるものがあります。』石橋の預言は当たりました。日本は、戦後、全ての植民地を失いましたが、しかし、やってゆけたのです！いや、やってゆけたどころではありません！それどころか世界第2の経済大国にまでなりました！あの時、石橋が言ったように、もし進んで植民地を捨てていたのなら、日本はアジア諸国を友人に持つことが出来ただけでなく、その道徳的決断の故に世界の国々の尊敬を受けていたと思われます。そして今、日本がかかえている日韓問題も日中問題もなかったと思います。ですから石橋湛山の小国主義は間違っていないでした。日本は、自分に与えられた4つの島で十分やってゆけたのです。ですから石橋の考えは、正にイエスのパンの奇跡の原理の適用だったと言えないでしょうか？つまりイエス様が仰られた事はこう言うことです。大勢を養う道は、どこからか買い求めてくるのではなく、今あるもの、自分が持っているもので始めることであるという事です。

(次ページに続く)

常に、僅かなものから始まる

第二の原則は、本当の豊かさは、常に僅かなものから始まるということです。イエス様が用いられたのは、少年が提供した5つのパンと2匹の魚だけでした。それを喜んでさしだした少年の心、犠牲的精神でした。この少年は、自分の為ではなく、皆の為に自らの弁当をさしだしました。驚くべき奇跡はそこから起こりました。神は常に小さなもの、小さな犠牲を軽んじられません。イエス様はこう仰いました。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。一粒の麦がもし地に落ちて死ななければ、それは一つのままです。しかし、もし死ねば、豊かな実を結びます。」(ヨハネ12章24節)と。少年の持っていたものは僅かでした。しかし、それが進んで捧げられた時に何と五千人を養うことになったのです。あの有名な二宮金次郎も同じことを発見しました。彼は三人兄弟の長男でしたが、少年の頃、両親が死に、家も人手に渡り、伯父の家に預けられていました。彼は勉強したくて、一日の労働の後、こっそり隠れて本を読むのですが、それを見た伯父が怒ってこう言います。『百姓が本を読んで何になるか！それに油がもったいないではないか！』それで金次郎は、それなら油を自分で手に入れようと思い、川の堤防の空き地に、友人から借りた菜種五勺(なたねごとう)0.5合(70g)を蒔いてみます。すると驚いたことに、翌年、その百倍を超える7升(約10キロ)以上の収穫を彼は得たのです。彼は、その時、まじめな労働に対していかに自然の恵みが大きいかを発見しました。気をよくした金次郎は、今度は、捨ててあった苗を、洪水で沼地となった土地を自ら開墾して植えてみました。すると翌年、それは、一俵の米となって彼に報いてくれたのです。そしてそれが彼の独立の最初の資金となりました。実は、このときの体験が、「おおよそ小を積みて大を致すは自然の道なり」(積小為大)つまり何事も小さいことが積み重なって、大きなことになるのだから、小さいことを軽んじてはならない、という不動の人生哲学を彼に与えることになったのです。彼はその後、自分の家を興しただけでなく、道徳的に破産し、荒廃したいくつもの村を立て直しました。それらはみな、力は外にではなく自分の内にある。そのわずかなものを用いて始めるときに、自然は必ずそれに報いてくれるものなのだということを発見しました。私どもの教会を開拓したニコラス宣教師が、ここ熊本県の大津で伝道を始めようとされた時に、お隣の建物を貸してくれた大家の矢島さんという方はこう言ったそうです。『ここは田舎で、保守的な町だから、

子どもはともかく、大人がやってくることはないと思いますよ。』するとニコラスさんはその大家さんにこう答えました。『大人が無理なら、子どもたちに伝道します。なぜならその子供達はいずれ、成長して私がいなくなった後も、この町の伝道を継続してくれるでしょう！』と。果たしてその通りになったのです。

余ったパン切れを集めなさい。

今一つのイエスが語られたのは次の言葉です。『余ったパン切れを、一つもむだに捨てないように集めなさい。』(ヨハネ6章12節) このイエスの言葉はいったい何を意味するのでしょうか？ある人が修道院の部屋に同じタイトルの手帳を見つけました。その手帳には、こう書いてあったそうです。それは、「祈りの時に思い浮かんだ言葉や語られた言葉など、それらの小さなパン切れのような思いを一つもむだにせず、集め、記録するように。」このイエス様の言葉は、私の過去に於ける様々な出来事など、小さく、又、無駄に思えるような事でも、それらを思い起こして集めてみるなら、そこから大きな教訓と神の御心を学ぶことができるだろうという事を、神は私たちに教えておられるかもしれません。主はモーセを通してイスラエルの民の旅程の出発地点を書きしるすよう命じました。(民数記3章2節) それらはひとつももらしてはなりません。宿营地の数は全部で四十数カ所。記録されているのは、その詳細ではなく一覧表でした。この荒野における宿营地を一覧表にすることによって、恐らくモーセはこの40年の歳月を一瞬にして展望することができたでしょう。そしてこの40年の歳月の中に、モーセは当時は気がつかなかった大きな神の意図を読みとったに違いありません。そして、それだけではなく、その40年の間、記録されたどの宿营地においても、神の恵みが、あふれるほどにあったことに驚いたに違いありません。

私の人生年表

私にも人生年表があります。それには自分の年齢のほか、子どもたちの年齢やその年の主な出来事、又、印象に残った書名などが書き込まれおり、一目で自分の人生の全体を見渡すことができるようになっています。心に残った本の名前を年代順に見るだけで、自分の心の歴史をみることができるのです。そしてそれと同時に、どの時代にも、あふれるほどの恵みがあったことを、思い出します。

イエスは、「5つのパンで5000人を養ったとき、余ったパン切れを集めたかではいくつありました

か」と問われると、「12です。」「4000人のときはどうでしたか?」「7つです。」と弟子たちは答えたが、イエスが与えたパンが、きちきちではなく、いつも溢れるほどのものであったことを思いださせられたのだと思います。

私も自分の人生年表を見て、やや以外だったのは、妻の記録です。妻は英語はできるが、外国へ行ったことはありませんでした。それどころか子育てに専念する為に、子どもが小さい間は旅行はすまいと心に決めていましたから、自分が外国へゆくようなことはあまり想像もしていなかっただろうと思います。ところが、記録を見ると、妻が外国へ行った回数は私よりはるかに多いのです。子育てが終わった頃に、大津町から国際交流の計画があるので手伝ってくれないかと依頼され、やがてネブラスカのヘイスティングスとう町と姉

妹都市が提携されると、町長の通訳としてに妻は子どもを引率し、何度もアメリカへ渡ることとなりました。その後も歴代の町長がアメリカに行くたびに妻はその通訳として、何と、毎年のように海外に行くこととなりました。全て、町からの依頼でした。神がパンを与えるときは、残ったパン切れを集めると12かどもあったように、神は、妻に溢れるほどのものを与えて下さいました。恐らく皆さんの人生にも、天国へ行ってから、その全部を振り返ってみる時に、神の恵みはどれほど溢れるものであったかと感謝するのではないのでしょうか。そのために過去の記録をむだに捨てないで、集めておきたいものだと思います。そして神の恵みの数々を数えてみたいものだと思います。余ったパン切れを、一つもむだに捨てないようとは、そういうことであったと思います。■

YFN2023 3年ぶりに が開催されます!

「あなたがたが新しく生まれたのは、朽ちる種からではなく朽ちない種からであり、生きた、いつまでも残る、神のことばによるのです。(1ペテロの手紙1章23節)」



■Thema/「刷新 -Regeneration-」

●今年の YFN は、刷新 -Regeneration- をテーマに CFNJ 聖書学院を会場として 1泊2日のキャンプ形式で行うことにしました。テーマ聖句より、生きたいつまでも残る、神のことばである朽ちない種から新しく生まれ変わることを体験できる YFN2023 キャンプにぜひご参加ください! みなさまのご参加を心よりお待ちしております!

・YFN director / 坂本 清恵 (キリストコミュニティガーデンアパハウス牧師)

■Guest/「中山 有太 師」

●プロフィール: 賛美の作詞作曲を手掛け、これまで多数のワーシップ CD を製作。日本各地で礼拝を導き、賛美奉仕者のティーチングなども行う。東北で8年間、東北中央教会、Praise Station などに従事し、2015年より福岡に移り、イエス・キリスト神の愛教会牧師として就任。現在はその枝教会の開拓を始めている。妻、長男、長女の4人家族。シャインチャーチ牧師。拡大宣教学院卒。



■開催日程 / 2023年

5月19日(金) 18:15 開場 ~

5月20日(土) 15:00 頃、解散(1泊2日)

■参加費 / 登録費: 中学・高校生(13歳~18歳) 1,500 円 / 大学生以上(19歳以上) 2,500 円 (各保険費用込み)

/ 宿泊費: 1泊 1,000 円 食費/朝食 500 円、昼食 500 円 ※学院事務局まで、お申込みください。

2022年7月 2023年3月 卒業



2022年度の7月1日（金）、アルプスコースを終えた3名が晴れて学び舎から旅立ちました。又、更に2023年の3月3日（金）、アルプスコース3名、2年コース3名の計6名の学生が、学院での学びを終えて任地へと送り出されました。この日はゲストに東京にある21世紀教会の「増山浩史師」をお迎えし、二日間にわたって講義と、卒業式にはアブラハムの信仰の歩みから、「神と共に歩むことの喜びと恵み」を熱く語って下さいました。この日は卒業する学生の為にも多くの信仰の家族が駆けつけて下さり、素晴らしい祝福の時となりました。式の後、会食とドラマコースのミュージカル劇「キリストを世界へ」も上演され、ダンスと歌の感動の時となりました。卒業したそれぞれのこれからの歩みの為にお祈りをお願い致します。

■主に栄光を帰します。見えるものを探していましたが、本当の真理は見えないものにあるのです。一人では迷いそうな時でも神の家族と共に御言葉の真ん中を進めば引き戻され、輝くことが出来ます。それは主を心で反射すること、見えない主が見える光となり救いの手を伸ばすことが出来るのです。私は見えるもので主を見ようとしていましたが、見えないものにこそ主を見ることができ、見えないものを主は見ています。人に見える者ではなく、主に見える者となっていくます。



アルプスコース（3年）
後藤 鉄成
(福岡県)

■神様がアルプスコースでの1年間でわたしの人生に計画してくれた事に心から感謝しています。これからの信仰生活で原点となっていくであろう充実した時間でした。入学前「神様、わたしを養ってください！」と切に祈りましたが、有り余る程の霊的な糧、癒し、祝福、友情などなど、私に十分なものを備えてくださっていました。主は本当に良い方で、最も信頼するに価するお方です。主に栄光を帰す弟子となっていきたいです。



アルプスコース（1年）
長谷川 理恵
(東京都)

■学院へ導いて下さり、養って下さり、良いものを受け継がせるために心を取り扱い、愛する先生方、仲間に出会わせて下さった主に感謝します。この三年の道は主が招いて下さった道でした。今後も羊飼いである主の声を聞き分けて従って行けるようにと祈りつつ歩みたい。「あなたがたのうちに良い働きを始められた方はキリストイエスの日が来るまでにそれを完成させてくださる事を私は強く信じているのです。」（ピリピ1章6節）ハレルヤ！



アルプスコース（3年）
濱田 めぐみ
(長崎県)



卒業

2023年3月

アルプスコース3名・2年コース3名



■まずこの学院に導き、最後まで守ってくださった神様に本当に感謝でいっぱいです。そしてまた送り出してくださいました両親や祈って応援していただいた方々にとても感謝しています。在学中に僕は二十歳を迎えました。今までの僕の人生は生まれて五ヶ月の時にミャンマーに行ったりと波乱万丈でしたが、これからの第二幕目の人生も不安や恐れを取り払って神様と共に歩んでいけたらと思います。



アルプスコース（3年）
伊藤 雄基
(ミャンマー)

■多くの方のとりなしによって無事2年間走り切ることが出来ました。この学院で受け取った祝福、学び、そして出会いは私の人生に大きな影響を与えてくれました。全ての出来事を益としてくださった主に感謝しかありません。これから社会に出ていく時に、神の国とその義とをまず第一にすることが私たち人間にとっての1番の祝福であることを人々が知るために、そのための管として用いられて、主に栄光をお返ししていく者になりたいです。



2年コース
屋良 直志
(沖縄県)

■愛とお祈りをありがとうございます。学院での恵みは尽きませんが、特に財産になった事は、第一、第二の戒めも新しい戒めも愛する事と受け取り、愛する事がどれ程大切かを学びました。目に見える何か以上に愛する、赦す、受け入れる、感謝する、またどんな時も主は良いお方、最善へと導いて下さるお方であると信じる事の大切さを学びました。今後も主と祈りの中で豊かに交わり、神と隣人を愛する生き方を通して、主を証する者になりたいと思います。



アルプスコース（3年）
大木 隆弘
(東京都)

■ハレルヤ！私たち家族を導いてくださった主を讃えます。この地で聞いて、見て、触れた全てのことが天のお父さんからの奇しい恵みでした。私には出来ない！私がやる！という握りしめていた手に、イエスさまは優しく触れていのちを注いでくれました。聖霊さまの喜びを味わいました。この学院を感謝します。祈り支えてくださっている皆様に心から感謝します。家族を感謝します。主がキリストのからだになされる御業に心から期待します！



2年コース
結城 直子
(神奈川県)

■この3年間、私はここでたくさんの人からの愛、そして神さまからの愛を受けました。私の見えないところでも祈ってくださっていた方々に日々支えられ、癒しもたくさん受けました。共に家族となり学び、賛美し、祈った日々は人生の中の宝物です。ほんとにこの3年間で大事なことは何かを知ることができ、それをこれからも主と共に実践し、主を知り続けていく旅は続いています。学院に置いてくださった神さまに心から感謝します！



アルプスコース（3年）
島勝 愛
(北海道帯広市)

■2年間、祈り支えてくださりありがとうございました。自分は、牧師になる召しを受けて学院に入ったので3年目に行くと思っていました。しかし、神様に導かれたのは、一度学びを止め、社会に出ていくことでした。自分の思っていた通りの道順ではありませんでしたが、自分が考える以上の神様の計画を信じ進んでいきます。いずれまた、この学院で学びを受けられる日を楽しみに、日々研鑽に励んでいきたいと思っています。



2年コース
本間 章宏
(北海道札幌市)

「アンディ・マッキントッシュ博士講義②」

テーマ：「渡り鳥からの聖書のメッセージ」

聖書に出てくる コキジバト！



「コキジバト」

宇佐神 実 師

空のこうのとりの、自分の季節を知っている。山鳩も燕も鶴も、自分の帰る時を守る。しかしわが民は主の定めを知らない。

エレミヤ8章7節



アンディ・マッキントッシュ博士

英国リーズ大学名誉教授
米国ミシシッピ州率大学非常勤講師
米国クラウン大学非常勤講師
聖書の創造団体アンサーズ・イン
・ジェネシス非常勤講演者
聖書の創造の宣教師

山鳩と訳されたコキジバト

エレミヤ8章7節に出てくる鳥たちは、本来すべて渡り鳥です。日本でもコウノトリ、ツバメ、ツルは渡り鳥ですが、山鳩は必ずしもそうではありません。

山鳩は、日本全国に生息するキジバト（英語名：Oriental Turtle Dove）の別称で、ほとんどの地域では、年中同じ地域に生息している「留鳥」です。本州の北部と北海道でだけは「渡り鳥」となり、夏に渡ってきて繁殖し、冬は南で過ごす。

山鳩と訳されたこの鳥は、実際にはコキジバト（英語名 European Turtle Dove）を指していて、イスラエルでは、「夏鳥」として春に渡ってきて繁殖し、冬は、「サブサハラアフリカ北部」（サハラ砂漠より南の地域）で過ごす渡り鳥です。コキジバトは、その名の通りキジバトより一回り小さく、外観は似ていますが、鳴き声の特徴は全く違います。ユーチューブ動画などでその違いを聞いてみて下さい。キジバトは日本人には馴染みのある特徴的な鳴き方をします。コキジバトの鳴き方は全く違います。

コキジバトと主の民の関わり

イスラエルでは、春になるとコキジバトが南から渡って来ます。雅歌2章12節に「地には花が咲き乱れ、歌の季節がやって来た。山鳩の声が、私たちの国に聞こえる」と書かれている通りです。この山鳩もコキジバトです。国中にその鳴き声が聞こえ、人々が春の訪れを喜んでいる様子を想像できるでしょうか。

残念なことは、現在生息地の減少や狩猟によって、コキジバトの数が激減してしまったことです。そのため鳴き声もほとんど聞かれなくなり、現在絶滅危惧種に指定されています。聖書の中の鳥がなかなか見られなくなったことに一抹の寂しさを覚えさせられます。

さて、聖書の中でコキジバトが最後に出てくるのは、イエス様がお生まれになってから八日目に、幼子を主に献げるためにエルサレムへ行った時のことです。レビ記12章の定めにしたがって、マリアのきよめのためのいけにえが献げられたのです。ルカの福音書2章24節に「また、主の律法に『山鳩一つがい、または、家鳩のひな二羽』とされていることにしたがって、いけにえを献げるためであった」とあります。レビ記12章を見ると、貧しい人は羊ではなくコキジバトが家鳩を献げるように定められていることから、ヨセフとマリアが貧しかったことがわかります。

かつて春から夏にかけて、イスラエルのどこでも見られたコキジバトは、さまざまな目的で献げられるいけにえの供え物の一つに定められていました。コキジバトを思う時、私たちの罪を贖う為に天から降り、人々に福音を告げ知らせ、真のいけにえとなって十字架上の贖いを成し遂げられ、三日目に甦り、天に帰られたイエス様のことを思われます。

イエス様は、私たちに永遠のいのちを与えてくださり、私たちのために、住まいを備えてくださっているのです。

冒頭で、エレミヤ8章7節に出てくる鳥がすべて渡り鳥であることを述べました。そのことを踏まえて、この箇所が述べようとしている真理を考えていきましょう。

この箇所で「帰る時」と訳された御言葉も、ただ単に「巢に帰る」という意味ではなく、「渡り来る時」を指しています。ほとんどの英訳聖書では「time of their coming(来る時)」「time of their migration(渡る時)」など、渡りの時であることが明確に伝わるように訳されています。

更に「守る(keep)」と訳されたヘブル語(シャメール)は、「見守る、気づく(observe)」の意味です。また「定め」と訳されたヘブル語(ミシュパート)は、「定め(律法)」の意味もありますが、ほとんどの英訳聖書ではこれを「裁き」と訳しています。

和訳された聖書をそのまま読むと、「鳥たちは、帰る時を守るのに、主の民は律法を知らない(守らない)」の意味で読み取れてしまいます。しかし、これが渡り鳥であることに着目するなら「渡り鳥たちは、渡りに備えてその時を見守っている。しかし主の民は裁きの時を知らない(見張って備えない)」の意味になります。

この聖書箇所が言わんとしていることは、「渡り鳥たちはそれぞれ自分の渡る時を知り、注意深くそれに備えているのに、主の民は主の裁きの時に対して、無関心で何の備えもしていない」と自分たちの現状に気づかせようとしているのです。

先のニュースレターで、渡り鳥に与えられている知恵の素晴らしさを考えました。ムナグロは、親鳥たちだけが先に渡ってしまい、その後、初めて渡りをする若鳥たちだけが残されます。それらは行ったこともない目的地を本能的に知っています。そして目的地に向けて正しい方角に飛び立ちます。しかも途中で、エサを食べられないため、まるで飛行距離を知っているかのように飛行燃料として必要十分な脂肪を飛び立つ前に蓄えます。そうして自分たちの渡りの時が来ると、一斉に飛び立つのです。もし、本能で目的地を知らなかったら、真っ直ぐにそこへ向かうことができせん。もし方角が少しずれていたり、脂肪が少し足りなかったりすれば、海に墜落して死んでしまいます。また、適切な時に渡りを開始しなければ、やはり繁殖できなかったり、十分なエサを確保できなかったりして死んでしまいます。そんな「渡り鳥」を用いて、聖書が私たちに、「何を語ろうとしているか？」をさらに考えてみましょう！

聖書の視点と進化論の視点

現代は、科学知識の蓄積と科学技術の発達によって、自然の詳細な研究が進み、動植物の生態が詳し

く理解されるようになってきました。私たちはそれらの研究の成果を、書籍や映像を通して知ることができます。

本来、そこには創造のみわざのすばらしさを知るチャンスが、溢れているはずです。しかし、残念なことに、それらのほとんどが、創造主を否定する、進化論の視点で説明されています。そして、その説明を、真に受けるなら、創造主の存在がわからなくなり、天地創造を、信じられなくなってしまいます。

ですから、私たちは、そのような情報に触れる時、純粋な研究の成果と、それに対する進化論の解釈とを切り分けて、偽りを排除し、事実を見分ける力を養う必要があります。そうして初めて、すばらしい研究成果を、聖書の世界観に立って理解することが出来、創造のみわざのすばらしさを、証し出来るのです。

19世紀を生きた英国の著名な牧師、C.H. スポルジョンをご存知でしょうか。1859年にダーウィンが「種の起源」を出版した時、彼は25歳でした。聖書をそのまま信じていた彼は、「もし神のことばが真実なら、進化論は偽りである。」と述べています。

彼は、世の中に、少しずつ進化論が浸透して行き、牧師の中にさえ、「進化論」を信じて、信仰を捨てる人たちが始まるのを、目の当たりにしていたでしょう。彼は「50年もしないうちに、学校の子供達は、広く信じられるようになった、驚くような妄想を勉強するようになり、そして、その中で、これ、(聖書の教え)は最も、「バカげた教え」の一つだと言及されるだろう。」(()は、加筆)と述べています。

今、私たちは、スポルジョンが、予測した通りの時代となっているのを、肌身に感じています。講演先でお会いした方が「学校で、天地創造を信じていると話したら、友達だけでなく教師からもずっとバカにされた」とご自身の経験を話してくださいました。進化論教育によって多くの人が信仰から離れ、又、真理に目を向けられないようにされている現状があるのです。

スポルジョンは「渡り鳥」という題の説教をしています。彼は、「渡り鳥」の生態をよく観察し理解していたことが、その説教から伝わってきました。そして、それらを踏まえて聖書から語っていたのです。私はそれを読んだ時、机上で学ぶだけでなく創造された自然に触れ、注意深く観察することの大切さ、又、それを、聖書の視点と結びつけて深く考察して伝えることの重要性を思わされました。

主の定めの時を知らない民

イエス様は、しばしば自然を引き合いに出して、聖書の真理を教えました。私たちも自然に関して、聖書が述べていることを、単に机上で考察して語るの

はなく、よく観察して理解を深める時、聖書のことは生きて伝わるのではないのでしょうか。

さて、渡り鳥に話を戻します。渡り鳥は、本能的に目的地と渡る時がプログラムされていて、渡る為に、様々な備えをします。「夏鳥」のツバメの場合は、春に日本に渡ってきて繁殖します。親鳥はヒナが孵（かえ）ると、エサを与え、飛ぶ訓練をし、自力で餌を獲ることや、水面すれすれを飛んで水を飲むことなどを学ばせます。そして**渡りの時**が来ると、一斉に飛び立って行きます。準備万端整った若鳥たちも、一度も訪れたことのない**目的地**に向かって、臆することなく飛び立って行くのです。

エレミヤ書では、このような渡り鳥に対して、多くの人が、「主の時」を知らず、何の備えもしていないことを告げています。

「空のこうのとりの、自分の季節を知っており、山鳩、つばめ、つるも、自分の帰る時を守るのに、わたしの民は主の定めを知らない。」（エレミヤ8章7節）

私たちの人生の目的地は何处に？

私たちの目的地はどこでしょうか？そこへ行くために必要な準備をしているのでしょうか？定められた時がきた時、後悔しないのでしょうか？マタイの福音書でイエス様も「大洪水前の人々が裁きに備えていなかったように、イエス様が、再び来られる時も、同じだ」と述べています。

「人の子が来るのは、ちょうど、ノアの日のようなからです。洪水前の日々は、ノアが箱舟に入るその日まで、人々は、飲んだり、食べたり、めとったり、とついでにしていました。そして、洪水が来てすべての物をさらってしまうまで、彼らはわからなかったのです。人の子が来るのも、そのとおりです。」（マタイ24章37節～39節）

私たちの人生の目的地は「天の御国」です！それは、あなたにとって、どれだけ現実でしょう！具体的に思い描けるでしょうか？それを待ち望んでいるのでしょうか？その為に、どのような準備をしているのでしょうか？マタイ25章では、花婿を迎える、**10人の娘の例え**があります。賢い**5人の娘**は、備えができていて、残りの、**愚かな娘**は、備えができていませんでした。花婿が来た時、賢い娘だけが婚礼の祝宴に行くことができました。「渡り鳥」が、自分の時を見守り備えるように、私たちも備えようではありませんか！

マタイ7章でイエス様はこう言われました。

「わたしの時はまだ来ていません。しかし、あなたがたの時はいつでも来ているのです。」（マタイ7章6節）私たちの時は、今来ているのです。

伝道者の書12章1節で、「あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ。わざわざの日が来ないうちに」と命じられています。また、箴言22章6節には、「若者をその行く道にふさわしく教育せよ。そうすれば、年老いても、それから離れない。」とあります。

主からの使命を知り、それを果たす！

「親鳥」が「若鶏」を育て上げるように、聖書に基づいて教育することが大切です。聖書には、「若い時」に、主を信じ、従った「信仰の勇者たち」がたくさんでできます。その人は、主の役に立てるチャンスがたくさんあります。**ヨセフ**は、奴隷として、エジプトに売られましたが、後に、エジプトの宰相となってイスラエル人を、飢饉から救いだしました。幼くして、主に応答した**サムエル**は、裁き司として、イスラエルを導きました。主が共にいてくださることを確信していた**ダビデ**は、ゴリアテに勝利し、王としてイスラエルを導き、多くの人に愛されている詩を詠みました。バビロン捕囚で異国に連れて行かれた**ダニエル**は、ネブカデネザル王を回心に導き、又、終末の預言を知られました。

若い時に、自分の**目的地**を悟り、**その為に備え**、自分に**与えられた使命を果たす**なら、その人の人生は、どれだけ祝福に富んだものとなるでしょう。

マタイ25章の**タラントの例え**でも、それを教えます。**5タラント**と**2タラント**預かったしもべは、与えられた備えの期間を活かして**タラント**を用いて商売が成功し、主から褒められました。**1タラント**預かったしもべは、**渡り鳥**のようではなかったのです。彼は、**天の御国**を思い描けず、その備えもせず、主の前に富まない生き方をしている間に、**定めの時**が来てしまいました。もし**主の定めの時**を知らない生き方をしているのに気づいたなら、主の前に遡りましょう。そして、自分に与えられている**主の使命**は何か？それを、どのように果たせるのかを祈り求めましょう！

詩篇1篇に幸いな人への約束が記されています。

「まことに、その人は主のおしえを喜びとし、昼も夜もそのおしえを口ずさむ。その人は、水路のそばに植わった木のような。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は、何をしても栄える。」（詩篇1篇2節・3節）

私たちが自分に与えられた**使命**に向かって、**主の教えを喜びとして生きる**なら、「**時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は何をしても栄える**」と聖書に約束されている通りの人になるのです。

この聖書の言葉をあなたは信じますか？

CFNJ 講義・ ゲストスピーカー

●ゲストスピーカーの講義は、どなたでも聴講できます。聴講は無料です。(席上献金あり。一部授業は有料)又、各コースの授業も聴講可能です。(有料)詳しくは学院事務局迄お問い合わせください。

**無料体験入学
実施中!**

平常授業のある3日間(3泊4日)
※詳しくは事務局まで。

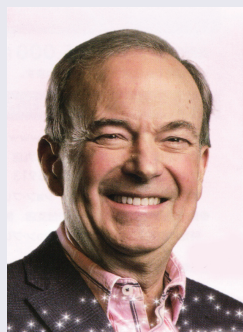


5月

中山有太 師

●シャインチャーチ牧師。拡大宣教会学院卒。YFN ゲスト

5/15～19 1・2 時間目



6月

グラント・マレン 師

●カナダ在住・精神衛生を専門とする医師。著書「心の解放」

6/12～16 1・2 時間目

2023年度1学期

授業カリキュラム スケジュール

(2023年4月10日(月)～7月7日(金)迄) 石狩灯台

1・2年コース(必修科目)

(敬称略)

	月	火	水	木	金
1 AM8:45～9:40	旧約聖書概論Ⅰ 金聖圭	クリスチャン カウニング 三浦雅範	真の礼拝者 鍛冶川 紀子	使徒の働き 田中博	日本人の生活と聖書 松原望
2 AM10:00～10:55			信仰の土台 坂本清憲		
3 AM11:05～12:00					
	世界教会史Ⅰ 鍛冶川利文	ディスカッションクラス 鍛冶川利文		世界教会史Ⅰ 鍛冶川利文	イエスキリストの生涯Ⅰ ジェリー・ジャンセン

アルプスコース(必修科目)

1 AM8:45～9:40	牧会論 田中 博	テモテ書 長沢 克己	とりなし 岡田 好弘	ヨブ記Ⅰ 石田 吉男	牧会カウニングⅠ 小栗 昭夫
2 AM10:00～10:55					
3 AM11:05～12:00	弟子訓練 金 聖圭	ディスカッションクラス 鍛冶川利文	弟子訓練 金 聖圭	聖書釈義Ⅰ 松原 望	聖書釈義Ⅰ 松原 望

選択科目

午後 AM 13:00～15:00	タンパリンクラス上級2 伊藤 雄基	ヘブル語 金 聖圭	実習 (必修)	ドラマ演劇 クラス 鍛冶川 紀子
	ドラマクラス 仲宗根 昇平			

新入生募集集中!

随時願書受付中!

cfnj.com

2023年9月入学、各学期からの入学可。

無料体験入学
実施中!

平常授業のある3日間(3泊4日)
※詳しくは事務局まで。

- アルプスコース(牧師・リーダー養成)
- 1・2年本科コース
- 1学期だけの短期で学ぶ事も可能です。

■SNSでCFNJの最新情報を
■Facebook: @CFNJBS
■Instagram: CFNJ 聖書学院

北海道 支笏湖 フィールドデイ

CD販売・刊行物

●お申し込みは/学院事務局まで

※サンプルは、下記のページで聴くことができます。

<http://www.cfnj.com/media.html>



「神の指がふれた時」 「神のみことばのいやしの力」

定価/1枚 (CD)

(送料別) 700 円



定価/1枚 (CD)

1,000 円 (送料別)



「神様との会話」

CFNJ 聖書学院 副学院長
鍛冶川 紀子



「聖霊のバプテスマを受けるには」
「いやしの信仰」 (ゴードン・リンゼイ著)
「山をも動かす祈り」 (ゴードン・リンゼイ著)
「主の恵み尽きることなく」 (鍛冶川 紀子著)

CFNJ小冊子
無料プレゼント!



CHRIST
FOR THE NATIONS
JAPAN

宗教法人 アジアキリスト福音宣教会・クライスト・フォー・ザ・ネーションズ日本校

CFNJ聖書学院

〒061-3216 石狩市花川北6条5丁目157
(0133)74-1341・1342 FAX 74-1343

●HP: www.cfnj.com 郵便振替: 02780-4-4688
●e-mail: office@cfnj.com 学院長/鍛冶川利文

